

鬼	北上市立	館
	の	
だ	よ	り
第5号		



墨僧面



獅子舞

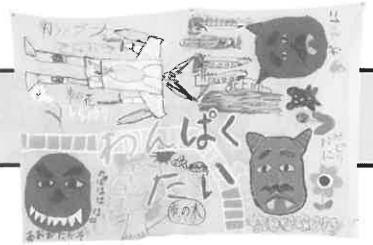
韓国・仮面劇〈タルツム〉

8月7日から9日にかけて行われた「北上みちのく芸能まつり」に、お隣の国・韓国から、ソウル芸術専門大学のみなさんが出演、仮面劇を上演されました。

韓国の仮面劇・タルツムは、歴史が古く、権力を風刺した内容と、独特の仮面を付けることでよく知られています。

一行は、9日に鬼の館を見学。市の秘書広報課を通じて「墨僧(ムオクチュン)」面を寄贈されました。

上半期(4月～9月)のもよおし



企画展示

企画展1・みちのくの鬼たち

－伊藤卓美木版画展－



7月7日(日)～8月18日(日)

期間中入場者数 8,691人

芸能公演

第3回 北上市大乘神楽大会



6月9日(日)

大乘神楽は、山伏の伝えた神楽のなかでも修験色が濃いいわゆる神楽です。北上市に21団体、花巻市に2団体が传承されています。大会はこれらの団体の相互交流と传承技能の研さんの場として、鬼の館の開館を機に毎年催されているものです。今年は、8団体が14演目を上演、用意した200席が常時満席となるほどの盛況でした。

主催 北上市大乘神楽保存会連絡協議会

北上市教育委員会

講座・教室

鬼学講座

「鬼の源流を求めて、をテーマに、全6回の講座が開講中です。上半期は、3回までが終了。

①6/30 鬼の起源～世界と日本 [岩手医科大学教授 力丸光雄先生]、②8/18 日本にみる鬼～鬼の風土記から [作家 服部邦夫先生]－写真、③9/21 仏教にみる鬼～仏像と鬼の姿 [岩手県立博物館学芸第一課長 大矢邦宣先生]

次頁で受講生お2人の感想をご紹介します。



鬼っこわんぱく講座

創作活動や鬼剣舞体験を通して、地域を越えた仲間づくりと传承活動への理解を旨とするものです。全8回のうち4回までが終了。



プレイベント5/5 おおきな鬼の絵をかこう

[ゲスト・絵本作家 野村たかあきさん]

①6/16 開講式と隊旗づくり、②7/13 鬼土面づくり、③7/25

鬼土面野焼き、④8/10～11 鬼っこキャンプ・鬼の張り子面づくり

(1泊2日)－写真



鬼学講座を受講して

鬼は「心」次第

佐藤幸治

岩手医大で化学を教える力丸教授が昨年に引き続き講座を持たれた。昨年は愚人故に「鬼学と化学」の取合わせを興味津津の受講に際し、まず頭に浮かんだのは「医者の手術」であった。高度な医術を駆使して切開されると信じているが更にプラスとなるようこの時点で一種の善鬼と化しているのではなからうか？だから関連があるのだと…。勝手に解釈していた。はからずも、今回の講座の中に鬼の字句を黒板に列記された、幾つかの目に「鬼手（手術）…仏心」があった。このときわが意を得たりの感を深くしたのである。さて、架空のもの、思うところの鬼を何者が考えたのか、誰が編み出したのか？概して神や仏と言うことになると、詰まるところ人であったのでは…。それぞれの国の抜きんでた人々が独自の鬼の造形を思考し「心のよりどころ」を説法や物語風に伝播したものごとく感じた。子供の頃に悪い事をしたり、親のいうことに反するとモーコ

(蒙古) がくるぞ、ウソをつくとも閻魔様に舌を抜かれるぞ、と言われて育ったのも、「良い心の人間たれ」と教導したものと思われた。モーコは博多湾で滅亡し、エンマは天界神の架空物と捕らえる現世代には分らない恐ろしいお化けのニュアンスであった。ウソも方便で善鬼の部類に入っているようだ。この昔人達の業績と、鬼学研究の諸先生に感動を覚えました。次に、世界の鬼と日本の鬼とは共通点があるように伺われる。即ち、生前の行状や生活には清く正しい心を持ってと教えている点である。死後の世を安楽に過ごすためと導いている、しかし、死して見なければ死の世とはどんな物か分からない筈だ。こんな感慨を述べるとアナキストはと、勘繰られるかもしれないが、私は鬼を神仏の分身と受け止め、善なるものに見方する貴いものが鬼であると思った。善人には善鬼が悪人には悪鬼がと、偉大な架空尊鬼が変化したもうと感じた。物質文明の現今「心が乏しい」と慨嘆する大人は鬼学から発奮しては如何だろう。医者メスを持つ鬼手は善鬼で必要鬼？人の心に鬼が宿っている。鬼は「心」次第で毒にも薬にもなると思われた。

鬼学に学ぶ

佐々木文男

鬼学第2回講座、服部邦夫先生の講義はレジメの内容に興味あるものがあつた。

残念な事に体調おもしろくなく、声が聞き取れず、残念でならなかつた。何時の日か、じっくり学べる事を望み、楽しみにしたい一人です。

鬼と言えば、怖い、強い…と頭に思いますが、少し考えてみると、弱きを守る、守護神である。また少し思うに、仏の世にも、神の世にも鬼は守護神であるのかも知れない。神の子として、生を受け、守護神に見守られながら生涯を暮し、仏の世でも見守

られ、神の世でも見守っている守護神であるように思われてならない。平成の世にも、神社や寺には鬼が居る。修験者が伝承した鬼剣舞や、神楽にも鬼は今も居る。日常の生活の暮しの中にも、春と共に田の神として下り秋と共に山の神として上る。多くの人達が山の神は女の神と考え、思って来た所もあるのだが、男の神も居れば、男女の山の神も居る。考え見るに、お互いに助け合い、災いを払い、生きる力を見出し来たように思われる。人としての味わいを感じる事の日々に勤めたいものである。鬼学を学ぶ、素晴しき仲間と共に、熱く燃える、鬼を求めたい。

鬼を通して人を知り、生涯の学びの研究を鬼学を知る、まさに鬼学研究所の開設の基である。

上半期 鬼の館芸能公演

4月28日(日) 口内鬼剣舞

演目：一番庭、二番庭、刀剣舞の狂い、八人加護、一人加護、膳舞

5月5日(日) 岩崎鬼剣舞

演目：一番庭、一番庭の狂い、刀剣舞の狂い、八人加護、一人加護、カニむくり

5月26日(日) 御免町鬼剣舞

演目：一番庭、刀剣舞、一番庭の狂い、刀剣舞の



狂い、一人加護、膳舞

6月23日(日) 煤孫ひなこ剣舞

演目：7拍子、14拍子、23拍子

7月28日(日) 川西念仏剣舞〈衣川村〉

演目：入剣舞、オッコミ、三人イカモノ

8月11日(日) 滑田鬼剣舞

演目：三番庭、一番庭の狂い、刀剣舞の狂い、宙返り、狐剣舞、三人加護

8月25日(日) 二子鬼剣舞

演目：一番庭、刀剣舞の狂い、宙返り、三人加護



新資料から

浮世絵 歌川國芳(1797~1816)画

東海道五十三對 土山

東海道の53の宿場を描いた絵画は、歌川(安藤)広重によって風景画として本格的に描かれるようになりました。天保4年(1833)から翌年にかけて製作された「東海道五拾三次之内」が最も有名です。これに続いて、歌川豊國やこの資料の作者である國芳も東海道を題材に描くようになりました。

國芳は、江戸時代末期の浮世絵師で、歌川豊國の門人です。文政末年に「武者絵の國芳」として名声を確立しましたが、風景画に力量と高い芸術性を示した作品が多く、豊かなアイデアや斬新な構図法に評価が高まっています。

土山は、東海道48番目の宿場です。坂上田村麻呂が奥州安部高丸追討の際、ここでの合戦に清水観音が現れて靈驗を示したこと。また、鈴鹿山の鬼退治の折にも女に姿を変えて現れ、田村麻呂を導き、悪鬼を退治したことが絵に添えて記されています。

いかにも悪相の鬼が休む部屋に、清水観音からの靈光に包まれた美しい姫が田村麻呂を案内するという國芳の技量が十分に発揮された一枚です。



企画展・2

「異形の神・カマド神」

平成8年10月13日(日)～11月24日(日)
北上市立鬼の館企画展示室にて

カマド神は、宮城県から岩手県南にかけて、台所のカマドのそばにまつられている家の神さまで。今回の企画展では、旧仙台領にだけ分布域を持つこの特異な民俗を、たくさんの実物資料をもとに紹介します。

■ 展示図録 800円 ■ 郵送も承ります 詳細は鬼の館へ。



カマベッコウサマ 岩手県大東町 足利家

NEWS

北上市立鬼の館英語版リーフレット発行

「鬼」は、日本人にとっても、なかなか奥の深いテーマですが、欧米の方々にとっては、極めて日本的な存在として受け取られている様子で、鬼の館の展示室を、それは熱心に見学されている外国の方をたびたびお見かけします。

鬼の館では、外国人向け解説資料を希望する声にお応えして、英語版リーフレットを作成し、外国人のお客様が多くおみえになる「北上みちのく芸能まつり」の8月7日からお配りしています。

作成に当たっては、岩崎公民館の佐々木兌館長に英訳をお願いし、北上市教育委員会の英語指導員・マイケル・チャベスさんの助言をいただきました。

佐々木館長は、「欧米では小さなころから博物館に親しんで育ちますから、とてもじっくり見学します

ね。博物館を身近に感じているのです。次は、さらに詳しい解説が求められるだろうから、展示されている資料の解説や展示解説図録も英文表示を考えていかなければならないでしょうね」と、さらなる充実を求められました。鬼の館としても、どなたにも親しまれる館づくりに取り組んでいきたいと考えています。



地色が黒、鬼の文字が赤のデザインです

■平成8年度新収資料(上半期)■

浮世絵 [歌川國芳画 東海道五十三對土山]	購入1点	木版画(伊藤卓美作)	東京都 伊藤卓美氏	寄贈2点	
鬼剣舞面	北上市和賀町 高橋松見氏	寄贈2点	鬼の館芸能ビデオテープ		
能面	〃	寄贈2点	北上市大堤 千田善一氏	寄贈9点	
神楽面	〃	寄贈1点	韓国民俗芸能ビデオテープ		
韓国・墨僧面	ソウル芸術専門大学	寄贈1点	ソウル芸術専門大学	寄贈1点	
般若面	水沢市 今野治昭氏	寄贈1点	韓国民俗芸能・写真	〃 寄贈7点	
カマド神	北上市稲瀬町 千葉惣寿郎氏	寄贈1点	桐木(丸太)	北上市和賀町 高橋清助氏	寄贈3点
木版画(伊藤卓美作)	購入5点				

《ご協力ありがとうございました》

鬼学ノート

異形の神

カマド神

鈴木明美

はじめに

古今東西を問わず「火」またはそれに付随する「灯」は日常生活において人の寄り集うところであり、ある意味では生活の拠点ともいえる。

我国での「火」の文化は、遠く旧石器時代に溯り、食料加工や「灯」及び「暖房」の手段として重要視され、日常生活の主的役割を担うものとして人と密接なつながりを持ち、あらゆる習俗文化に浸透しながら、いろいろな形で発達してきた。

「火」が有す特異性から、あるものは民間信仰の対象とされ、またあるものは宗教的儀礼や年中行事に取り込まれるなど様々である。火を象徴化し具象化して、形として表現したものに縄文時代中期の火焰土器があり、仏像等では不動明王や四天王立像の光背に見られる火焰光や六道絵がある。

これらは総て「火」に対する畏敬・畏怖の念からの表現であると考えられる。

旧仙台領内に分布する「カマド神」信仰もまた火伏の神として畏敬・畏怖の念からくるメンタル的な面での現れであり、象徴化された偶像崇拜の一つであるとみられる。

1. カマド神

宮城県から岩手県の南部地区、いわゆる旧仙台領内にかけて広がりをもせる民間信仰の一つであり、火伏の神として祀られる。

一般にカマガミサマと呼ばれるが、地域によっては、カマド神・カマベツトウ・カマヅンツァン・カマオトコ・カマノカミサマ・カマダイコク・カマメンコ・荒神・土公神等の異なった名称で呼ばれている。この名称は、生活の拠点となる火を取り扱う場所、特にも土間の竈付近の柱や壁に祀られることから付けられたものとみられる。

カマド神は、土製と木製の2様があり、近年のも

のとしてコンクリートや焼き物がみられる。

土製品は粘土や壁土を素材として自然乾燥で形成する。一般的に大型のことが多い。

面相の作り出しは、様々であり、頭部にネジリ鉢巻きを巡らすものや髭を生やすものなど製作者の意志が反映され、目や口元に貝殻、瀬戸物を埋め込み、表情を豊かにするものが多くみられる。分布をみると土製品は、岩手県側と比較した場合、圧倒的に宮城県側に多く分布し、反面岩手県側には木製のカマド神が多く分布する様相を呈す。

木製品の材質は、ケヤキ・マツ・スギ・キリ・クリ・クワ・ミズキ等一定せず、特にカマド神と材質についての因果関係はないとみられる。また、製作方法は、平ノミと縦ノミを駆使して面に立体感をもたせるよう製作され、入念なものとなっている。また、面相は土製の素朴さに比べ怒りを表現した憤怒の形相を呈するものが多く、目や口に彩色を施すものもある。一般にこれらの相違は、単に製作過程における土と木という素材に関係するものとみられる。

2. カマド神の種類と祭祀の理由

民間信仰の一つとして、家に祀られるカマド神の素材として土製と木製があることは既に記した通りである。これら面相及び形態をみると、大別して次の四つの形態がみられる。

①怒りの表情を面に表現した憤怒面。

②平頭巾を被り柔和な表情を表現した大黒面。

③頭部に烏帽子状のものを被る夷面。

④人間的な表情した人面。

②・③の夷大黒の二神は、七福神の筆頭にうたわれる神で、福德の来訪をあらわすめでたい神の代表とされる。この福德の来訪神である二神がカマ神として祀られる理由には次の事が考えられる。

家が衰退する事象や家族の一部が別れて一家を構える、いわゆる分家の事象などを「カマドを返す」、「カマド分け」、「カマドをつくる」の言葉で表現することがある。ここでいう「カマド」とは、「家自体」を意味する言葉である。

家における竈は、家の食と火を司る場所であり、一般的に食は、家の繁栄を映し出すバロメーターとされ、火は家の存亡を左右するものとされる。このよ

うに竈は家の存続をはかるうえで、中核をなす所であることから、福德の神、火伏の神、いわゆる家を守る神として、竈付近に祀られるのも当然のことであると考えられる。

なお、①は厳しい怒りの表情で家の出入り口に向けて祀られる神で、家に害を及ぼすような邪悪なものを防ぐ魔除けの神とされるが、実際これも裏をかえせば、家を守ることとなり、繁栄をもたらす福德の神として祀られている。

④は、一般にその家の戸主に似せて造られたとされるもので、囲炉裏の上座に向けて祀られる。これもまた家に福を招く福德の神とされる。

こうして、火伏の神・福德の神・悪疫除けの神・盗難の神として、また台所に立つ女性を守る神として、家に繁栄をもたらし、家全体を守る神としてカマド神は祀られているのである。

3. 祭祀の場所

カマド神の祀られている場所は、土間の竈付近に祀られるのが一般的であり、どの地域でも共通している。また、その位置は竈より高く祀られるのが普通であるが、取り付けている位置は一定していない。地域によって、また家の造りによっても異なるが、主によく取り付けられる柱として、ウシモチ柱・カマ柱・大黒柱・ヨメゴカクシ柱などが一般的である。この他にも家の間取りとの関係から竈付近の梁や長押に祀られる例もみられる。岩手県南部の北上市や江刺市では、壁に塗り込み、祀る方式のものがみられる。これは主に竈上部の壁土に塗り込まれて祀られる。一般に人面のものが多く、西方（囲炉裏方向）を向く場合が多い。柱とカマド神の種類との関係を見ると、ある程度の共通性がみられる。ウシモチ柱やカマ柱には4種類の面相のいずれか1体が祀られ、西方もしくは南方を向く。ヨメゴカクシ柱には、忿怒面・夷大黒面が祀られ、南方を向く。これらは前項で記したそれぞれの祭神によって、位置が定まっていたものとみられる。ただし、家の間取りによっては、一括して竈付近に祀られる例が数多くみられるようである。

宮城県中田町では、竈付近の梁に忿怒面と大黒面を並列して祀るところがある。これは、竈が玄関方

向を向くため魔除けの神として忿怒面を火伏の神として大黒面を祀ったものである。

4. 製作年代と制作者

カマド神について最も古い記録として菅江真澄（1757～1829）の紀行文がある。天明6年（1786）の9月に宮城県河南町を訪れた際、土製のカマド神をみて記されたものである。この記述から210年前にはすでにこの風習があったことが理解できる。

宮城県鳴子町や金成町には、文化11年（1814）・明治3年（1870）の年号が墨書で記されたものがある。このような特例を除き、年代不明のものが一般的である。また製作者についても同様のことがいえ、不明とされるものが多い中で墨書銘やその製作形態からある程度判明している。佐藤東三郎（平泉町）や仏師蘓武（一関市）・高橋久助（鳴子町）・及川亀寿（千厩町）・佐藤金治郎（東山町）等が知られるが、なかでも陸前高田出身のハダカカベは有名である。

5. まとめ

古来からカマド神は、まさに人々の生活の一部として密着し、信仰され存在していた。

黒く光り、そして威厳をもって家を守ってくれていたカマド神が、社会情勢の変化や生活形態の変化等によって竈の消失を招き、さらに信仰心の希釈によって減少の度合いを高めている。現在では、古来からの祀り方をしているのは稀であり、面相も奇麗にされ、床の間や居間の装飾品とされているのが普通である。まだこれらは、広義の意味での伝承につながるものとして解釈もできるが、反対に売買の対象になってしまっているものも多い。生活形態の変化や世代交替による信仰心の薄れによって人々の心からもしだいに離れ、他の民俗事例と同様にカマ神信仰の形態もまた、変化せざるを得ないのであろうか。

10月13日～11月24日にかけて企画展「異形の神カマド神～カマド神は語る～」を開催する。今回の企画の意図が、保存のための一つの契機となれば幸いである。

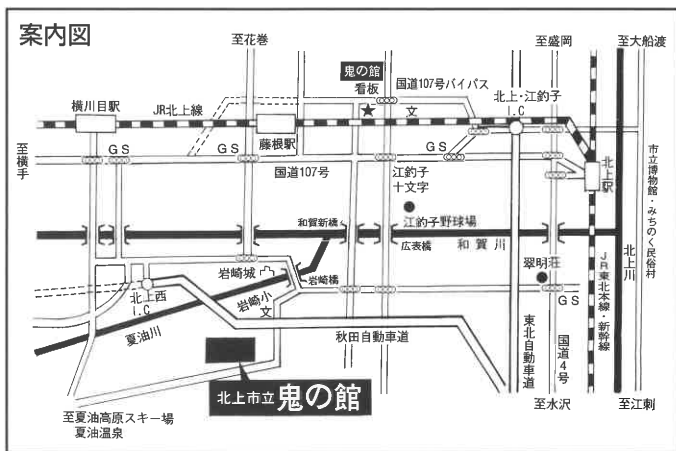
（すずき あきよし：北上市立鬼の館学芸員）

事業日誌

- 4/1 辞令交付式：主幹平賀出席
- 4/11 高橋清助氏より桐木寄贈
- 4/23 市内小中学校新任教員施設見学会 30名
- 4/26 県立花巻養護学校ルンビニー分教室 15名
- 4/26 利根山光人記念館落成式：主幹平賀出席
- 4/28 鬼の館芸能公演：口内鬼剣舞保存会18名 解説：館長門屋
- 4/30 市内博物館等連絡会議：主幹平賀出席
- 5/5 鬼の館芸能公演：岩崎鬼剣舞保存会18名 解説：館長門屋
- 5/5 鬼っこわんぱく講座：大きな鬼の絵をかこう44名
講師：野村たかあき氏
- 5/11 コンコード市からカーキング氏来館：関係者4人
- 5/15 野口英世記念館等博物館視察：主幹平賀～16
- 5/16 市観光ルート視察研修25名
- 5/17 県都市管財事務協議会職員研修20名
- 5/18 鬼柳小学校113名 統導5名
- 5/23 サトウハチロー記念館落成式：館長門屋・主幹平賀出席
- 5/23 瓦版5月号発行配布
- 5/24 県内農業委員会委員研修23名
- 5/24 黒沢尻西小学校113名 引率5名
- 5/26 鬼の館芸能公演：御免町鬼剣舞保存会15名 解説：館長門屋
- 5/29 パソコン等講演会：学芸員鈴木・石川受講
- 6/6 雄物川文化財保存協議会研修45名
- 6/6 香川県高松市議会議員視察1名
- 6/9 第3回北上市大乗神楽大会250名
- 6/11 和賀小学校4年生44名 統導3名
- 6/12 県副知事行政視察職員6名随員
- 6/14 二子小学校3年生44名 統導3名
- 6/16 鬼っこわんぱく講座：開校式隊旗づくり5名
- 6/17 財団法人地域伝統芸能活用センターから感謝状授与する
- 6/20 転勤奥様講座生31名
- 6/23 鬼の館芸能公演：煤孫ひな子剣舞21名 解説：館長門屋
- 6/23 瓦版6月号発行配布
- 6/25 浜松市議会議員視察6名随員1名
- 6/26 北海道教育大学付属札幌中学校修学旅行8名
- 6/26 笠松小学校3年生31名 統導3名
- 6/30 鬼学講座 講師：岩手医科大学教授丸光雄氏 32名
- 7/4 消防訓練を実施
- 7/4 北上市区事業所見学会県内高校教師公共職業安定所33名
- 7/7 県中部地区監査委員研修会38名
- 7/7 平成8年度企画展・1「みちのく鬼たち伊藤卓美版画展」開始～18
- 7/7 武蔵野市セカンドスクール実地踏査6名
- 7/13 鬼っこわんぱく講座：面作り学芸員鈴木
- 7/16 中国三門峡友好訪問3名
- 7/17 岩手県博物館等連絡協議会総会・研修会
館長門屋・主幹平賀・学芸員鈴木出席
事例発表「県内外博物館施設クーポン制導入の現状について」主幹平賀
- 7/18 県立花巻養護学校北上分教室5名引率5名看護婦1名
- 7/25 鬼っこわんぱく講座：土面焼き10名 学芸員鈴木
- 7/27 高橋松見氏より鬼剣舞等5点寄贈
- 7/28 鬼の館芸能公演：川西念仏剣舞保存会16名 解説：学芸員鈴木
- 7/30 市民施設めぐり27名
- 7/31 県保健所長研修24名
- 8/7 第35回北上みちのく芸能まつり鬼の館公演
岩崎鬼剣舞・鳥喰大神楽・道地ひな子剣舞
- 8/7 今野治昭氏より般若面1点寄贈
- 8/9 韓国ソウル芸術専門大学生41名
- 8/10 鬼っこわんぱく講座 張り面づくり他
講師：澤藤範次郎氏・佐藤克英氏 ふるさと体験館北上 10名
- 8/10 韓国ソウル芸術専門大学生より墨僧面1点寄贈
- 8/11 鬼の館芸能公演：清田鬼剣舞保存会16名 解説：主幹平賀
- 8/12 千葉惣寿郎氏よりコマド神1点寄贈
- 8/17 瓦版8月号発行配布
- 8/18 企画展・1「みちのくの鬼たち伊藤卓美版画展」終了
- 8/20 静岡県清水市議会議員視察5名
- 8/22 兵庫県姫路市議会議員視察10名
- 8/25 鬼の館芸能公演：二子鬼剣舞保存会12名 解説：主幹平賀
- 8/25 早稲田大学教授G・ツォーベル氏来館
- 8/29 県振興局総務部長研修17名
- 9/7 第3回全国鬼サミット：長野県鬼無里村
主幹平賀 学芸員鈴木出席
- 9/12 瓦版9月号発行配布
- 9/19 東北地区博物館協会 総会・研修会 主幹平賀出席～20
- 9/21 鬼学講座 講師：県立博物館学芸第一課長大矢邦直氏 24名
- 9/22 芸能公演：飯豊鬼剣舞保存会15名 解説：館長門屋
- 9/26 静岡県藤枝市議会議員視察14名

利用案内

- 開館時間** 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。
- 休館日** ・月曜日(国民の祝日の場合は開館)
・国民の祝日の翌日(土・日・月曜日の場合は開館)
・上記開館の振替日
・12月28日～1月4日まで
・館内整理日(11月27日～30日)
- 入館料** 一般 300円(250円)
高校生 200円(150円)
小中学生 150円(100円)
()内は20人以上の団体料金。
市内の学校の児童生徒が学習活動で申請により利用するとき、毎月第2・4土曜日に利用するときは入館料が免除になります。
- 交通案内** ・JR北上駅西口よりバスで25分。
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。夏油温泉行(季節営業-5月～10月)「鬼の館前」下車。
・JR北上駅より車で20分。
東北自動車道北上江釣子I.C、秋田自動車道北上西I.Cからともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第5号 1996.9.30

編集・発行 北上市立鬼の館
☎ 024-03 北上市和賀町岩崎16地割131番地
TEL・FAX 0197(73)8488